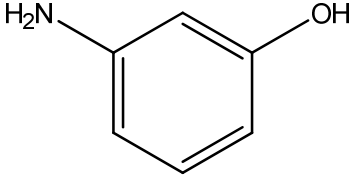


2	CAS 番号：591-27-5	物質名： <i>m</i> -アミノフェノール
<p>化審法官報公示整理番号：3-675 (アミノフェノール)</p> <p>化管法政令番号： 1-24</p> <p>分子式：C₆H₇NO</p> <p>分子量：109.13</p> <p>構造式：</p>		
<p>1. 物質に関する基本的事項</p> <p>本物質の水溶解度は 2.56×10^4 mg/1,000 g (20) で、分配係数 (1-オクタノール/水) (log Kow) は 0.21 (pH=5.6)、蒸気圧は 1.86×10^{-3} mmHg (=0.248Pa) (計算値) である。生物分解性 (好氣的分解) は BOD 分解率で 0% であり、濃縮性がない又は低いと判断される物質である。また、加水分解性の基を持たない物質とされている。</p> <p>本物質は化学物質排出把握管理促進法第一種指定化学物質に指定されている。主な用途は、染料、医薬品(パスの原料)、感熱色素、農薬、アラミド繊維用原料とされている。また、平成 21 年度における製造・輸入数量は 651 t、アミノフェノールの平成 24 年度における製造・輸入数量は 1,000 t 未満である。化管法における製造・輸入量区分は 100 t 以上である。</p> <hr/> <p>2. 曝露評価</p> <p>化管法に基づく平成 24 年度の環境中への総排出量は約 0.21 t であった。そのうち届出排出量は約 0.18 t で全体の 87% であった。届出排出量の排出先はすべて公共用水域へ排出されるとしている。このほか、移動量は下水道へ 0.008 t、廃棄物へ約 3.8 t であった。届出排出量の主な排出源は、化学工業であった。届出外排出量を含めた環境中への排出は水域が最も多かった。多媒体モデルにより予測した環境中での媒体別分配割合は、環境中又は公共用水域への推定排出量が最大の地域を予測対象とした場合には水域が 96.9%、土壌への推定排出量が最大の地域を予測対象とした場合には水域が 85.3% であった。</p> <p>水生生物に対する曝露を示す予測環境中濃度 (PEC) は、公共用水域の淡水域、海水域ともに概ね 0.007 µg/L 未満となった。化管法に基づく平成 24 年度の公共用水域・淡水への届出排出量を全国河道構造データベースの平水流量で除し、希釈のみを考慮した河川中濃度を推定すると、最大で 0.014 µg/L となった。</p> <hr/> <p>3. 生態リスクの初期評価</p> <p>急性毒性値は、藻類では緑藻類 <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> の生長阻害における 72 時間 EC₅₀ 160,000 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ <i>Daphnia magna</i> の遊泳阻害における 48 時間 EC₅₀ 450 µg/L、魚類ではメダカ <i>Oryzias latipes</i> の 96 時間 LC₅₀ 121,000 µg/L が信頼できる知見として得られたため、アセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 4.5 µg/L が得られた。</p> <p>慢性毒性値は、藻類では緑藻類 <i>P. subcapitata</i> の生長阻害における 72 時間 NOEC 25,000 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ <i>D. magna</i> の繁殖阻害における 21 日間 NOEC 50 µg/L が信頼できる知見として得られたため、アセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく PNEC 0.5 µg/L が得られた。</p> <p>本物質の PNEC は、甲殻類の慢性毒性値から得られた 0.5 µg/L を採用した。</p> <p>PEC/PNEC 比は淡水域、海水域ともに 0.01 未満となる。また、化管法に基づく届出排出量を用いて希釈のみを考慮して推定した河川中濃度は最大で 0.014 µg/L であり、PNEC との比は 0.1 よりも小さな値となる。したがって、現時点では作業の必要はないと考えられる。</p>		

有害性評価 (PNEC の根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	曝露評価		PEC/PNEC 比	PEC/PNEC 比による判定	評価結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)			
甲殻類 オオミジンコ	慢性	NOEC 繁殖阻害	100	0.5	淡水	<0.007	<0.01		
					海水	<0.007	<0.01		

4. 結論

	結論	判定
生態リスク	現時点では作業の必要はないと考えられる。	

[リスクの判定] : 現時点では作業は必要ない、 : 情報収集に努める必要がある、 : 詳細な評価を行う候補、 × : 現時点ではリスクの判定はできない

(): 情報収集等を行う必要性は低いと考えられる、(): 情報収集等の必要があると考えられる、(-): 評価の対象外、あるいは評価を実施しなかった場合を示す